

新指導要領「地理A」をどう活かすか？

－新単元：「自然環境と防災」を軸にした地理再必修化への戦略－

2010. 3.15

日本学術会議 地理教育分科会

伊藤 智章（静岡県立吉原高等学校）

1. はじめに・・・「地理」が学べない

- ・「文系で地理が取れない」（選択肢として用意されていない）学校が増加中。
（静岡県 109 校中 26 校が”文系で地理の履修不可“：2009 年度・報告者調べ）
- ・トップ校（地域拠点校）以外は、教員の人事で生徒の「地理を学ぶ機会」が変化。
→各学校で地理教員は 1 人（or ゼロ）・・・理系に行かない限り、地理は学べない。
- ・普通高校はほとんど「地理B」（4 単位）。履修（all）or 非履修（Nothing）
- ・東京都「日本史必修化」宣言・・・全国に波及？
- ・教師・講師がいない・・・地理学専攻への進学者の激減＝「負のスパイラル」へ。

2. 新学習指導要領「地理A」、新単元「自然環境と防災」は、高校地理教育復興の切り札

我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内に見られる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることについて考察させる。
（平成 21 年告示：高等学校学習指導要領 地理Aより）

「我が国」と「地域性」に軸足を置いた地理Aの独自単元

→国内志向・伝統志向にシフトしつつある教育行政の流れに逆らうのではなく、むしろ波に乗って行く方が賢明。地理Aは日本史(特にA)との親和性が高い

⇒「脅しの防災」「結果論の災害解説」から、
「災害をいなし先人の知恵を視覚的に学び、考える」防災教育

3. 地理Aによる地理再必修化プラン・・・「新課程完全実施」までの3年間で勝負

- ・「日本史必修化」⇒「日本回帰」の世論をレバレッジ（てこ）に「日本の地理もしっかり」！
- ・「ブラタモリ」で話題の「古地図マニア」、歴女（れきじょ）鉄子（てつこ）
⇨地理好き・・・ブーム到来の素地はある。地理の用語や概念をわかりやすい言葉で発信
- ・日本史・世界史・地理のセクト主義、パイの奪い合いをやめる。
- ・「全科目必修」で学ぶことで生徒が得る利益を強調（地歴3科目必修の都立の学力重点校のカリキュラムを参考に）。

1年 地理A+日本史A（必修4単位）

2年 世界史B（必修4単位）+地理B or 日本史B（選択2単位）

3年 現代社会（必修2単位）+地理B or 日本史B or 世界史B（選択2単位）

- ・大学入試「地歴2科目受験」の流れ⇒地理A+歴史B、地理B+歴史A（+現代社会）の選択を促せば、履修者は増える。
- ・「センター利用入試」・「フィールドワーク」を取り入れたAO/推薦入試の充実（私立）
- ・「地理非履修」校での地理の補習・課外学習・集中講座を奨励。学校の枠を越えた発表・交流の場の確保（学会の高校生セッション、地理オリンピックなど）